市政ニュース

地域コミュニティ組織認定式開催
～自分たちの地域は自分たちで守る～

昨年度、地区公民館区域を基本にした全29地区で、地域コミュニティ組織が設立され、4月1日、この認定式を開催しました。

本市では、人口減少が進む中、行政区より大きい区域の地区公民館の範囲で、新しい地域コミュニティ組織による地域づくり活動を推進しています。

新しい組織は、従来の行政区の仕組みを生かしつつ、若者から高齢者まで、地区住民全員が参画し、地域に向き合い、より良い地域を目指します。

組織が担う重点機能は「地域振興」「地域福祉」「地域防災」「人づくり」の四つの分野。その他、地域の実情で、地域に必要な機能も持たせています。また、地区公民館の建物は、地区コミュニティセンターに移行し、社会教育だけにとどまらない地域コミュニティ組織による地域づくりの拠点施設となりました。

本市は、地域と役割を分担しながら、連携・協力し合う「協働」関係をさらに進めます。

▲地域コミュニティ組織認定式（但東地域）

▲お祝いの言葉を贈る豊岡市地域コミュニティアドバイザーの作野広和さん（島根大学教授）

ボートU23・シニア日本代表強化合宿実施
～緩やかな流れと恵まれた環境「円山川」で～

4月12日、東京2020年五輪に向けて結成されたボート日本代表チームが、円山川城崎漕艇場を拠点に強化合宿を始めました。

合宿参加者は、トップチームの「シニア」の男女13人と、23歳以下の「U23」の男女11人。東京五輪でのメダル獲得に向けた第一弾の強化合宿です。

勾配が緩やかで川幅が広い円山川。練習は、漕艇場から豊岡大橋付近まで約10㎞の区間で行われています。

▲練習場となっている円山川（円山川城崎漕艇場）

全市で「豊岡市小中一貫教育」展開
～ふるさと豊岡を愛し、夢の実現に向け挑戦する子どもの育成～

全国に先駆けて、10年前から取り組んでいる本市の小中連携教育。本年度から、取組みをさらに強化して、学びと育ちを支える「豊岡市小中一貫教育」を全ての市立小学校と中学校で始めました。

豊岡の良さを学ぶ「ふるさと教育」、グローバル化時代の中で世界とつながる力の一つ「英語教育」、演劇的手法を取り入れた「コミュニケーション教育」、小中学校で系統性と一貫性のある寄り添い方で実践する「学習指導と生活指導」を展開します。

▲新たに作成した学習の補助資料「ふるさと学習ガイドブック」

～主な市政の動き～

【3月】

11日・城崎大橋架替事業起工式
19日・北近畿豊岡自動車道「八鹿日高道路」開通記念イベント（25日・開通式）
20日・竹野南地区公民館竣工式
24日・「第２次但馬定住自立圏共生ビジョン」策定
27日・「第３次豊岡市男女共同参画プラン」策定
・豊岡農業スクール修了式
30日・西気地区公民館竣工式
・コワーキングスペースFLAP TOYOOKA竣工式
・WILLER TRAVEL㈱と「IT関連事業所の開設に関する協定」締結
31日・「豊岡市地域福祉計画」「豊岡市障害者計画」策定

【4月】

1日・地域コミュニティ組織認定式
・ファミリーサポートセンター開設
4日・㈱中西調査・測量事務所と「災害時等における無人航空機による協力に関する協定」締結
・豊岡市地域おこし協力隊委嘱状交付式
・豊岡農業スクール入校式
10日・「災害時にトップがなすべきこと」6市町長共同発表（東京都千代田区）

北近畿豊岡自動車道「八鹿日高道路」開通

～危機管理の道 いのちの道 大交流の道～

3月25日、北近畿豊岡自動車道「八鹿日高道路」が開通し、記念式典が行われました。

好天に恵まれた当日は、300人を超える観衆が集まり、井戸知事や地元関係者らによるテープカット、地元の幼稚園児による風船飛ばしなどが行われました。

開通したのは、養父市から日高町久斗を結ぶ9・7kmの区間。本市で初となるインターチェンジ（IC）の名称は「日高神鍋高原IC」です。

本自動車道の開通で、阪神地域から本市への所要時間が、およそ10分短縮され、観光振興や地域間の大交流、周辺地域への企業進出などが期待されます。

また、緊急医療機関への搬送時間の短縮や、災害時には、代替道路としての役割も果たします。

▲記念式典後に記念ゲートを通過するトラック

「早寝 早起き 朝ごはん」運動が文部科学大臣表彰受賞

～家庭で広めよう〝あたりまえ生活習慣〟～

豊岡市教育委員会の「早寝早起き朝ごはん」運動の推進活動が、文部科学大臣表彰を受賞しました。

この賞は、子どもたちの健やかな成長のため、適切な運動、調和の取れた食事、十分な休養・睡眠など、基本的な生活習慣の定着を推進するため、平成24年から隔年で、その活動内容が特に優れている団体等に対して表彰されています。

本市は「早寝早起き朝ごはん」の大切さを伝えるオリジナルの紙芝居「めらとにんじゃのしゅぎょう」の作成や、子どもが1歳6カ月になるころから子育てに手が掛かることに注目した保護者向け啓発冊子「いちろくザウルス」を作成し、乳児の健診時に配布した他、保護者と学校園が、学び合う講演会・研修会を開催したことが高く評価されました。

▲授賞式に出席した石高教育長(左)ら

中貝市長の徒然日記 ⑭

イスラエル通信②

イスラエルでのシンポジウムでスピーチ後、たくさんの方が寄ってこられました。

「私は教師をしています。昨日、ちょうど子どもたちに豊岡の話をしたばかりでした」「え？何ですって？」

別の方がまた寄ってこられて「豊岡のコウノトリの話を聞くのは、これで6回目です」「どこでお聞きになったのですか？」「ラン・レヴィさんがイスラエル中で話しています。ご存じなかったですか？」

ランさんというのは、ぼくを招いてくれた方です。

そう言えば、テルアビブ空港から砂漠と死海に向かう車の中で（ランさんは砂漠の生物の研究者です）「中貝さん、私、毎週のように学校などで豊岡のことを話しています。年間に何千人にもなります」と聞かされていました。が、それほどまでとは知りませんでした。イスラエルは、今、豊岡のことが最も知られている国かもしれません。

ランさんと初めて会ったのは、以前、柳生博さんとともに招かれた、宮司さんたちの研究会の席でした。そこにランさんも招待されていました。彼はコウノトリの取組みに驚き、豊岡にやってきました。

その後、ランさんは豊岡を舞台に〝Stork Madness〟（コウノトリ狂い）という映像を作り、ユーチューブにアップしています。この映像は、世界中でこれまでに約3万7千回再生されています。実現はしませんでしたが、この映像を見たアフリカの方から招待状が届いたこともありました。

さまざまな価値が対立する中で、なぜ豊岡はコウノトリの野生復帰を成し遂げ、コウノトリ育む農法を広げることができたのか？イスラエルで何度もそう尋ねられました。

「対話です。でも口は一つだけです。耳は二つ。二つのことに耳を傾け、話すのは一つにしなければなりません」たどたどしく英語で言うと、それは知恵の言葉のようにイスラエルの空の下に響き渡ったのであります。